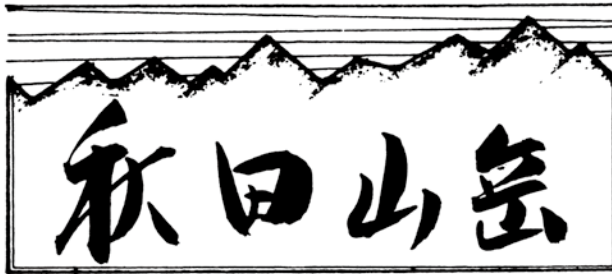


2021



令和3年2月 発行

No. 118

公益社団法人 日本山岳会秋田支部

秋田市泉菅野
1-2-14 鈴木方

TEL・FAX018(823)2708

発行 秋田支部
編集 鈴木裕子

太平山歩道整備事業

太平山歩道整備事業報告

鎌田 倫夫

十一月十二日(木)、午前八時に二手ノ又登山口に参加者九名が集会した。当初十一月七日(土)の予定であったが、雪が降る悪天候となったため、この日に延期となった。
この秋一番の冷え込みみであったが好天に恵まれて無風状態であり、天気にも感謝したい。

草刈機三台を用意したが二台で充分とし、参加者で打ち合わせしてから出発した。

前岳山頂には九時三十分着。今回の刈り払いは、ここから中岳手前の三角井戸までの予定である。

作業中に通過する登山者には「ありがとうございます」と言われるのは何時ものことであるが嬉しい。

登山道には雪が残っていたが、久々の好天となったこの日は中岳まで登る登山者が多い。

佐藤博会員、歩仁内昌樹会員の二台による草刈り機の後を、他の参加者で刈り払った小枝やササを除去する。

気が付くと十二時を過ぎており、前岳山頂に戻り、「来年は雪の降る前、もう少し早い時期に作業しよう。」「刈り払いはどの辺?」などと会話しながら遅めの昼食にする。

作業中は寒さを感じなくても周囲は積雪があり、次第に寒さを感じる。

午後一時十五分頃、下山開始した。朝、霜柱があった登山口は風が無く暖

かで、近くのスキー場では作業員が、トラクターによるグレンデの草刈りや整備、リフトの点検作業などをしていた。最後に鈴木支部長からお疲れ様の芳い言葉で解散となった。
平日のため、休暇を取得して参加した会員に感謝します。



参加者 鈴木裕子 堀井弘
鎌田倫夫 佐藤博 熊谷光子
歩仁内昌樹 三浦昭男
会員外 戸松好造、熊谷律子

前岳女人堂の

支障木処理

佐々木 民秀

十二日の歩道整備に参加の予定であったが、生憎にも急遽の用事が重なってしまい不参加。

三日後の十五日(日)、好天の元に、前岳(女人堂)の眺望を遮る支障木を、前太平山管理人・畠山秀雄氏と鈴木支部長との三人で、部分的に処理した。尚、一部は少し前に愛好者によって処理されていた。

女人禁制で由緒ある女人堂(神仙山)は、昔から太平山中では最も多くの人々に登拝され、親しまれてきた。

その眺望には特に定評があったが、近頃では樹木が伸び放題となり、男鹿半島や仙北方面等が望めなくなり、その阻害が増々進んで来ていた次第である。私も含め、太平山管理員時代に処理しておくべきであったと後悔しているが、当時は太平山中の各歩道や施設の整備に没頭、その上、弱小予算での歩道整備の時代でもあった。

また、これまでの歩道整備は、異事業を始め、大方がボランティアとして有志や各山岳会の協力を得て実施してきた経緯があり、現在に至っている。

今後共に、女人堂や中岳山頂からの眺望を守っていただきたいたいもの

と思うと共に、太平山に限らず、県内の山々も同じ状況にあり、その眺望を

末永く維持していつて頂きたいものである。

歩道整備事業に参加して

歩仁内 昌樹

十一月十二日(木)、雨天延期となっていた「太平山歩道整備事業」が快晴のなか行われました。
開催日が休日から平日に変更されましたが、仕事より刈払作業のほうが大事と考え、私は休暇を取得して参加することにしました。

私はこの太平山歩道整備事業に参加するのは初めてであり、かつ、登山道で草刈機を操作するのも初めてでした。自宅敷地に隣接する土手の草刈りが一向に行われないため、実家から年季の入った草刈機を持ち出して雑草程度しか刈ったことがない私にとっては、作業場所が平地から山に変わるのは大きなステップアップとなりました。

実際に、山で草刈機を使用してみても、まず失敗したことは燃料を始めからタンクに注入してしまっただけです。草刈機のバランスが一方に片寄ってしまい、作業現場まで担ぎ上げるのに苦労し、燃料は作業直前に注入すべきであるという基本的なことを学びました。

また、ベテランの佐藤博会員の操作する姿が大変参考になり、谷側ではなく山側の斜面を刈ることが重要であることを学び、鎌田副支部長からは刃先を雪面に入れてしまうと回転部が目詰まりを起こす危険があるとアドバイスをいただきました。

今年の作業区間は前岳から三角井戸まででしたが、毎年参加されている皆

さんは手慣れたもので、作業は順調にはかどり十二時過ぎには終了し、前岳で昼食をとり、十四時には全員無事に下山となりました。



登山道が廃道になってしまふことはとても寂しいことです。

前岳の鞍部で合流する、かつて歩いた一ノ沢コースはヤブに消えていて、軽井沢コースも同様となっています。

市町村合併以降、県内の山々は最低限としてメインコースだけの整備が行われ、いわゆるサブコースの整備はなおざりにされた感じがしますが、やは

り古くから歩かれ、受け継がれてきた山の道がなくなることは残念でなりません。

今回の貴重な経験を活かし、刈払技術の修得に努め、微力ながら登山道を維持管理する活動を続けて、時が流れても、次の世代がこの山を楽しめるように守っていききたいものだと思います。来年も参加します。

今年、長らく廃道状態であった山伏岳の高倉沢コースと薬師岳の甲山コースの刈り払いが行われました。早速、歩いてきましたが、困難を極めた作業の様子が目に浮かび、一度荒れた登山道を復活させることは大変なことである、と感じました。

一手ノ又登山口のベンチを新しく 堀井弘

平成二十五年十一月に、支部公益的事業として、一手ノ又登山口に手作りベンチを二基設置してから八年過ぎ、多くの登山者に利用され、喜んで頂いていましたが、月日が経つにつれ、一基の腐食が激しく使用に耐えない状況でした。

山川会員や顔見知りの登山者から通報あり、幾度か下調べを行い、再生することを検討しております。

好天の続いた十月に、サイズを測定して材料を調達して、手作りし、十月十五日に山仲間の手伝ってもらい、設置致しました。



新たに設置したベンチ(右)



作業中の堀井会員(左)
永田さん(右)

第二回役員会

令和二年度の第二回役員会が、十二月十一日(金)午後一時から、泉コミュニティセンター会議室で開催された。出席者全員がマスク着用と、換気のため窓を開けての会議となった。鈴木支部長からの挨拶に続き、案件を協議した。

「支部会員名簿」作成については、本会の指導では、個人情報保護の立場から、会員番号、氏名、住所は市町村まで、生年月日と電話番号は記載なしである。

支部会員名簿もこれに従うべきかと協議したが、自分が参加している会の、会員の情報を知らないのはおかしい、名簿の管理をお互いしっかりすればよい、また、万一遭難等が発生した場合の連絡等を考慮し、従来通りの記載方法で名簿を発行することとした。

続いて、令和三年度支部通常総会については、本会に倣い、会計監査が終ってから、総会案件を同封して委任状と共に、案内を送送する事にしたい。そのために、四月下旬に開催したらどうか、などの意見があり、四月二十四日(土曜日)に予定した。

また、コロナの状況次第では書面での決議も考えておかなければならないなどの意見もあり、その記載方法等の検討を後藤委員にお願いした。

会報の合本については、これまでは合本用として、百二十部を事務局で保管して作成してきたが、秋田支部設立七十周年に向けて会報の合本をどうするか、本会会報「山」のように、「合本」を希望する本人が保管しておいて、希

望者のみの分を集めて合本にするか、などの案があったが、アンケートで決めたかどうかなどの意見もあった。百十六号からは、合本の部数は印刷しておらず、USBにPDFで保管している。支部保管用としては約三十部を確保している。

続いて、六十周年記念事業会計報告等が石川会計担当から説明があった。



マスクをしている役員会

「山岳古道調査」については、踏査は厳しいと思う。報告書の記載も簡単ではない。

矢立峠(大館市)、秋田街道(仙北市)、仙北街道(東成瀬村)、矢島街道(由利本荘市)、島海山古道(由利本荘市)の五コースを案とし、実際に踏査するものが出来るかどうかも検討しなければならない。

佐藤和志副支部長が、候補地の市町村、観光協会等に協力を頂けるようお願いすることであった。

支部連絡会議

出席者 鈴木裕子 佐藤和志
鎌田倫夫 川口廣志 石川祐子
柴田勲 三浦眞六 安藤金栄
熊谷光子 後藤浩二 三浦昭男
(報告 副支部長 鎌田倫夫)

令和三年一月三十日(土)、午後二時からオンライン会議で開催。本会集会所の六名を含め六十一名参加。

進行は、永田常務理事。古野会長の挨拶に続いての会務報告では、来年度の支部特別事業補助金の募集についての説明。二月に予定されている「登山教室指導者養成講習会」は中止。また、来年度の「全国支部懇談会」は開催予定がないとの事であった。古川常務理事からは財務会計についての説明。コロナ禍のため事業が行えず、残金を繰越金として処理し、次年度に加算することについての説明。続いて、飯田理事から記念事業委員会の報告があった。(会報「山」で報告されている。)

近藤理事の古道調査については、まだ各支部からの推薦はなく、会員個人から十二件程の推薦があったとの事。支部山岳古道担当者選任依頼があった。公益法人運営委員会佐野委員長からは、①パワハラ防止法 ②新聞記事の配信配布について(「山」一月号に掲載) ③理事の定年と任期 ④復活会員制度の四点について検討しているとの事。

会員名簿発行については「山」一月号に掲載。また、本会で所有している図書及び資料のデジタル化を図り、公

開する。山岳遭難事故については、東京多摩支部から現状の報告があった。各支部の意見交換では、コロナにより、支部活動が半減したことが大きかった。秋田支部からは、コロナ禍の中でも太平山歩道整備等を行うことが出来たと報告。青森支部からは、来年度の東北地区集会是中止とし、翌年令和三年度へ延期することとした。

古道調査については、某支部では、人的に、物理的に無理があるので参加しないという声もあった。古道調査の報告書の記載については、ホームページに掲載する予定なので、参考にしてくださいとの事。また、支部を跨ぐ古道については、本会で調整する。

本会理事会では、これを機会に、オンラインで三ヶ月毎に連絡会議を開催したいとの事であった

秋田支部は、オンライン会議に初めて参加した。休憩もあったが、約四時間、パソコンとらめっことであった。(報告 支部長 鈴木裕子)



ツチアケビ 高津森山(琴丘町) 10.1 撮影 佐々木民秀

会務報告

◎第二回役員会

・十二月十一日午後一時から、泉コミュニティセンター会議室で開催。
(詳細は三頁で報告)

◎事務局会議

○十一月二十四日 午後一時から泉コミュニティセンター会議室で開催。
・役員会に提案する案件について

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫

後藤浩二 三浦昭男

○一月二十八日 午後一時から泉コミュニティセンター会議室で開催。
・「山岳古道調査」の本会への推薦について。

一月号の「山」に同封された古道推薦に記載されている古道推薦条件が、当初からの条件と歩行時間が四時間から二時間に変更等があり、推薦には戸惑いもある。支部連絡会議でも古道調査についての諸課題を検討すること。

推薦する古道のパンフレット、書籍インターネットからの情報を集め、佐藤副支部長から資料も届き、三月中には本会へ推薦できると思う。

・支部の山岳古道担当者を鎌田副支部長と三浦(昭)委員にお願いした。
・令和三年度の総会に提案する案件を検討した。

出席者 鈴木裕子 鎌田倫夫

後藤浩二 三浦昭男

○中華民国山岳協会・東亜支部長林哲全氏から、秋田支部宛てにメールで賀状が届きました



旧年中はひとかたならぬご高配にあずかりまして誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の終息を願うとともに、皆様に早くお会いできることを楽しみにしております。

訂正のお願い

会報一七号二頁一段

「横手高校山岳部OB会」を

「横手工業高校山岳部OB会」に訂正

訃報

二会員 高橋洋二さん

(横手市)

令和二年十一月二十八日逝去

(享年七十七才)

ご冥福をお祈りいたします

余白

令和二年十二月十二日、増田山岳会主催の「第十回増田山岳会写真展」が増田地域局一階のフリースペースで開催され、ご案内を頂いていたので、佐々木民秀さん、今野昌雄さん、佐藤博さんと共に鑑賞してきました。

会場には、会員が撮影した自慢の山岳写真が六十数点展示されていた。

増田山岳会の会員でもある長岩名譽顧問のコーナーがあり、蒐集した山岳写真のファイルと共に、支部設立五十周年、六十周年の記念手拭い、韓国山岳会慶南支部との交流訪韓登山「漢拏山」登山時の記念品やパンダナ等も展示されていた。

また、近くにある、リニューアルされた「増田まんが美術館」で開催されている「矢口高雄展」も鑑賞してきた。

(鈴木裕子)



編集後記

令和二年は、新型コロナウイルスに翻弄され、支部総会始め、春山行や、東北地区集会、全国支部懇談会、そして、晚餐会までもが中止となつてしまつた一年だつた。

そのような状況の中でも、山の環境整備事業・太平山奥岳山頂トイレの防腐剤塗装作業に参加、秋山山行七座山、公益的の事業として太平山歩道整備事業等を行うことができた。

十月に入るとコロナ終息の気配が見えたような気がしたが、十一月に入ると、全国的に急速に感染者が増え続け、年末には変異株ウイルスも確認された。令和三年新年早々一都三県に緊急事態宣言が発令、更に二府五県にも追加発令された。県内でも病院でクラスターが発生して感染者も増え、首都圏との往来や親族との会食等、増々の自粛生活となつてしまった。

本会からは、ルームの予約はとりあえず、全てキャンセル、理事会等、会議は全てオンラインで行うとのこと。

さらに、県内は豪雪に見舞われ、横手、湯沢等は、観測史上最大の積雪となつた。除雪による死亡事故も多発して残念なことである。

支部行事を中心にして纏めている会報「秋田山岳」に掲載すべき事業が少なく、情報の確保に苦慮し、発行が遅くなつてしまつた。

一日も早くコロナが終息し、活発な支部活動や、以前のように自由に親族、友人に会えることが出来るようになることを願っている。

(編集者 鈴木裕子)